

Citation: EH Walters, Walters JAE, Gibson MDP. Long-acting beta2-agonists for stable chronic asthma. *The Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 3. Art. No.: CD001385. DOI: 10.1002/14651858.CD001385.

CRG名: Airways

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 14 March 2003

Clib issue No.; N/U: 2005 issue 4; -

背景: 喘息は成人にも小児にもよくある呼吸器疾患で、「救援」気管支拡張療法に対して短時間作用型吸入 β 2刺激薬が広く用いられている。吸入副腎皮質ステロイド薬の「予防」療法(ICS)に加えて、先を見据えた「症状コントロール薬」として長時間作用型 β 2刺激薬が導入された。

目的: 本レビューは、長時間作用型吸入 β 2刺激薬の規則的な使用による喘息コントロールの主要アウトカムへの利益または不利益をプラセボと比較して判定することを目的とした。

検索戦略: 最新の2002年10月版Cochrane Airways Group trial registerで検索を行った。同定したRCTの文献リストをその他関連性のあるRCTがないかを検索し、他に発表および未発表研究がないかを同定されたRCTの著者に問い合わせた。

選択基準: 慢性喘息において1日2回の長時間作用型吸入 β 2刺激薬をプラセボと比較する2週間以上にわたる全てのランダム化試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが別々に、データ抽出と研究の質の評価を実施した。欠落データがないか研究著者に問い合わせた。

主な結果: 85件の研究が選択基準を満足し、そのうち56件は並行群間研究で、29件がクロスオーバーデザインであった。キシナホ酸サルメテロールは長時間作用型の薬剤として60件の研究に使用されており、フマル酸フォルモテロールは25件の研究に使用されていた。治療期間は32件の研究が2週間から4週間、53件の研究が12週間から52週間であった。34件の研究群が同時に吸入ステロイド治療を用いており、21件の研究ではその使用を禁じており、35件の研究が吸入ステロイドまたはクロモンのいずれかの使用を許可していた。プラセボと比べて、長時間作用型 β 2刺激薬に朝のピークフロー(PEF)(加重平均値の差(WMD)26.78L/min、95%CI 20.36~33.20)、夜のPEF(WMD 19.17L/min、95%CI 11.63~26.73)などさまざまな気道内径の指標に意義のある利点がみられた。長時間作用型 β 2刺激薬の使用により、症状は有意に少なく、救援薬の使用も少なく、生活の質のスコアは高かった。規則的に吸入ステロイドを使用している成人の増悪リスクは低かった。

レビューアの結論: 長時間作用型 β 2刺激薬は慢性喘息コントロールに有効で、エビデンスは、現行のガイドラインに強調されているように、吸入ステロイド薬に追加しての使用を支持している。ICSを投与されていない軽度の喘息患者と12歳未満の小児に対する使用についてはさらなる研究が必要である。

翻訳公開日: 06年6月23日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。また、この日本語訳はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。